

産業廃棄物収集運搬業（積替保管を含む。）の経理的基礎に関する審査基準

（令和３年９月６日改正）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則（昭和４６年厚生省令第３５号）第１０条第２号ロ又は第１０条の１３第２号ハに定める、産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の収集又は運搬（積替保管を含む場合に限る。）を的確に、かつ、継続して行うに足りる経理的基礎を有するための基準は次のとおりとする。

第１ 営業実績が３年以上ある法人の場合

１ 次の各号のいずれかに該当すること。

- (1) 直前３年の各事業年度における経常利益金額等（損益計算書上の経常利益金額に当該損益計算書上の減価償却費の額を加えて得た額をいう。以下同じ。）の平均額が０以上である。
- (2) 直前事業年度における経常利益金額等が０以上である。
- (3) 直前事業年度において債務超過でない。

２ 前項に該当する者は、次の各号のいずれかに該当する場合、収支計画に基づく経営診断書（今後５年間の事業に係る収支計画に基づいて中小企業診断士または公認会計士が作成した経営診断書をいう。以下同じ。）を申請書に添付し、今後５年以内に健全な経営の軌道に乗ることが証明できること。

- (1) 直前事業年度において債務超過である。
- (2) 次のア又はイに該当し、かつ、直前事業年度における自己資本比率が０以上１０パーセント未満である。

ア 直前３年の各事業年度における経常利益金額等の平均額が０未満である。

イ 直前事業年度における経常利益金額等が０未満である。

- (3) 直前３年の各事業年度における経常利益金額等の平均額及び直前事業年度における経常利益金額等が０未満であり、かつ、直前事業年度における自己資本比率が１０パーセント以上である場合で、次のア又はイに該当する。

ア 経常利益金額等が、直前々事業年度（直前事業年度の１年度前の事業年度をいう。以下同じ。）において０以上、かつ、直前事業年度において０未満である場合で、経常利益金額等の伸率（（直前事業年度における経常利益等金額－直前々事業年度における経常利益金額等）／直前々事業年度における経常利益金額等）がマイナス２００パーセント未満である。

イ 経常利益金額等が、直前々事業年度、直前事業年度においてともに0未満の場合で、経常利益金額等の伸率（（直前事業年度における経常利益金額等－直前々事業年度における経常利益金額等）／直前々事業年度における経常利益金額等）が100パーセントを超えている。

第2 営業実績が3年以上ある個人の場合

1 次の各号のいずれかに該当すること。

(1) 直前事業年度において資産の額が負債の額以上である。

(2) 直前3年のうち少なくとも1年分は所得税を納付している。

2 前項に該当する者は、次の各号のいずれかに該当する場合、収支計画に基づく経営診断書を申請書に添付し、今後5年以内に健全な経営の軌道に乗ることが証明できること。

(1) 直前事業年度において資産の額が負債の額以上であり、かつ、直前3年において所得税を納付していない年がある。

(2) 直前事業年度において資産の額が負債の額未満であり、かつ、直前3年において所得税を納付している年がある。

第3 営業実績が3年未満の法人及び3年未満の個人の場合

収支計画に基づく経営診断書を申請書に添付し、今後5年以内に健全な経営の軌道に乗ることが証明できること。

第4 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた特例

廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）第14条第1項又は第14条の4第1項に規定する許可の更新申請にあつては、当面の間、第1の第1項各号のいずれにも該当しない者及び第2の第1項各号のいずれにも該当しない者は、収支計画に基づく経営診断書を申請書に添付し、その原因が新型コロナウイルス感染拡大の直接的又は間接的な影響による経営の悪化によること及び今後5年以内に健全な経営の軌道に乗ることが証明できることを経理的基礎を有するための基準とする。

第5 この審査基準は、令和3年9月6日から施行する。